

憧鉄雑感

第 64 回

静寂なる診察室

安部正敏*

医療機器の発達というのは目覚ましいものがあり、医療現場を一新させるまでに至る。先日訪れた歯科医院には驚いた。各診察台の上には患者用モニターが置かれ、歯の具合が瞬時に一目瞭然であるほか、合間には医療情報が流れる。尤も“怖い歯周病は3カ月ごとの歯科検診が有用”などという、集客まがいの情報であるが、それ以上に静寂な空間である様相に驚愕する思いであった。筆者の祖父は歯科医であった。祖父宅に遊びに行くと、歯を削る恐ろしき機械のモーター音が耳について離れなかった。その後お決まりに泣き喚く患児の声。おどろおどろしい光景である。しかし、昨今の歯科外来は気になるモーター音はなく、時折泣き叫ぶ患児が静寂を破る。尤も、皮膚科診療は昔から左程煩くもなく、時に液体窒素や軟属腫摘除に泣き叫ぶ稚児の大声がこだまする。大げさなりアクションをする大人の患者も存在するが、逆にこれでもか！とばかり液体窒素をかけてもニヤニヤする尖圭コンジローマのオッサンなど不気味以外の何物でもない。

ところで、先頃世間を賑わせた大幅割引の国有地売却であるが、地下にたまったゴミのみが注目され、なぜ売却されるのかが報道されないのは不思議である。実はあの土地は、伊丹空港の空路の真下であり、飛行機騒音対策に確保された土地である。空路の真下にある建物には、騒音対策として二重窓やエアコンの補助が行われる。手厚い補助が必要となるため、いっそ国が買ってしまえ！という性質の土

地である。しかし、近年航空機性能の向上は目覚ましく飛行時の騒音は激減した。結果、騒音対策のため確保する必要がなくなる土地が出てくる訳であり、そこを民間に払い下げる。

他方、我が鉄道も新幹線は性能が向上し騒音対策は確実に進んでいる。東北新幹線 E5 系は最高時速 320 キロを誇るが、その技術には目を見張るものがある。航空機と違いエンジンをもたない電車はもともと静かな乗物であり、主な騒音は高速走行時の空気抵抗である。当然突起物などの車体形状により騒音は左右されるため、E5 系はパンタグラフを1基で高速運行を可能とした。それ以外にも、新幹線軌道両側に防音壁などを設置し環境基準をクリアしているが、国が鉄道の騒音対策のため土地を保有するなど皆無である。鉄道は自ら自前で速度向上から騒音対策までなさねばならぬ、まことに哀れな企業体であることを声を大にして主張したい。尤も、線路沿いの国有地が、騒音が減ったために払い下げとなれば、全国の鉄道ファンが土地購入に殺到し、ゴミなんぞそっちのけで、値引きならぬ値上げになるかもしれない。

静寂を破る患者の大声である。なんでも、受付終了2分後に来院した患者に、看護師が「次からは終了前においでください」と優しくたしなめたところ逆上したらしい。筆者の患者であり、いつもの仏の顔が今日は赤鬼である。「たった2分でなぜ怒られるのか！」興奮する患者に「いえ、我々運転士の2分延は立派な運行支障でして…」と毅然として告げる…訳もなく、赤鬼が退散するのをひたすら待った。無論、静寂を破ったこの男は尖圭コンジローマ患者ではない。外用療法が無効なのか、それとも単に激怒したためなのか、顔面紅斑の解釈が運転士を自称する皮膚科医にはとても難しいアトピー性皮膚炎患者であった。☒



* Masatoshi ABE, 医療法人社団廣仁会札幌皮膚科クリニック、褥瘡・創傷治癒研究所

写真の説明：騒音対策万全の北海道新幹線 H5 系は最高時速 320 キロ！ 通過線をアッという間に駆け抜ける！